

平成 30 年 12 月 6 日（木曜日）

○齊藤 守君 こんにちは。自由民主党、船橋市選挙区の齊藤守でございます。

本日は、私にとっては平成最後の質問の場をこうしてお与えいただきましたことを、心から自民党の先輩、また同僚議員に感謝申し上げます。

まず初めに、望まない妊娠をした妊産婦への支援について伺います。

ことしの 4 月ごろ、千葉市で出産した新生児の遺体を自宅に隠したとして、少年と沖縄から来た少女が逮捕された事件がありました。報道によれば、2 人はどうしたらよいかわからなかったので隠したと話しているようです。私は、児童虐待の最たるものは赤ちゃんの遺棄、死亡だと思っています。しかしながら、このような悲しい事件が全国で後を絶たず、残念ながら本県においても発生しております。

昨年の 12 月の定例県議会において、私は児童虐待による死亡事例をなくすための千葉県の取り組みについて質問をし、最後に、予期せぬ妊娠をして誰にも相談できずに悩む妊婦が孤立しないように、相談しやすい体制づくりについて要望したところです。その後、県からは、平成 30 年度から新たに、望まない妊婦など、さまざまな事情から妊娠に不安や悩みを持つ方を対象とした相談窓口である妊娠 SOS 相談事業を実施すると聞いています。

そこで伺います。県で今年度から新たに開始する妊娠 SOS 相談事業の進捗状況はどうか。

先日、常任委員会の県外調査で、NPO 法人こうのとりのゆりかご in 関西を視察しました。こうのとりのゆりかごというのは、平成 19 年に熊本市内の病院において、遺棄されて命を落とす赤ちゃんを救いたいという思いから、匿名で子供を預かる施設として設置された国内唯一の施設です。同 NPO 法人は昨年、国内 2 カ所目の開設を目指しましたが、常駐医師が確保できなかった等により、残念ながら設置が見送られたとのことでした。しかしながら、まず赤ちゃんの命を救うことを優先する、このような仕組みが全国に広がっていくことは、児童虐待を防止する意味でも重要であると思います。

また、一昨年の県外調査で熊本のこうのとりのゆりかごを視察した際に伺った話では、関東地方からこうのとりのゆりかごへ子供を預けようと向かった途中で亡くなってしまった事例があるとのことでした。出産後間もなく長距離の電車等での移動を行えば、母子ともに危険が伴うのは当然のことです。そこで、このような悲劇を生まないようにするための取り組みを全国に広げていく先駆けとして、千葉県にもこうのとりのゆりかごを設置していくことができれば大変望ましいと考えています。

そこで伺います。こうのとりのゆりかごの設置に対する県の見解はどうか。

次に、袖ヶ浦福祉センターについて伺います。

平成 25 年 11 月に袖ヶ浦福祉センターの養育園で発生した虐待死亡事件を受け、県及び

社会福祉事業団では、平成 27 年度から 29 年度までを集中見直し期間として設定し、千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会の評価を受けながらセンターの見直しに取り組んできました。本年 8 月に見直し進捗管理委員会から、その取り組み結果について総括評価が提出されました。この評価を見ると、一部評価されている部分はあるものの、施設環境の整備も含め、個々の利用者にあった適正な支援を実現するための少人数ケアへの転換がなされず、また支援の質も、県立施設に求められる実践レベルに到達していないなどといった大変厳しい評価となっています。9 月議会での我が党の代表質問において、総括評価を受けて県の対応について質問したところ、今後のセンターのあり方については、速やかに委員会を設置し、対応方針を明らかにしたいとの答弁があったのです。センターの今後のあり方の検討に当たって、現在、センターで暮らしている利用者の方々はもちろんのこと、県内の強度行動障害などの重度の障害をお持ちの方々が行き場を失うことがないように仕組みを構築する必要があると考えます。

そこで 2 点伺います。

1 点目として、見直し進捗管理委員会からの提言を受け、県ではセンターの今後のあり方等について検討するとのことだが、現在の取り組み状況はどうか。

2 点目として、センターの今後のあり方について、利用者のためにもできるだけ早く方向性を示すべきと考えるが、どうか。

次に、少子化対策について伺います。

国が 9 月に公表した人口動態統計によると、平成 29 年の全国の出生数は 94 万 6,065 人と、2 年連続で 100 万人割れであるとともに、前年に比べると約 3 万人も少なく、少子化の進行に危機感を抱かざるを得ません。このような少子化の流れに歯どめがかからない中、核家族化や女性の社会進出が進展しており、保育施設の整備など、子供を産み育てやすい環境を整備することは大切なことだと思いますが、未婚化や晩婚化が進行する現代においては、少子化対策としては、結婚を希望しながらできない方への支援、婚活に対する取り組みを行う必要があるのではないかと考えるところであります。

平成 27 年の国勢調査によると、県における未婚者の割合は 30 から 34 歳で、男性が 48.8%、女性は 35.2%です。これでは子供がふえるはずがありません。皆様の周りにも、恐らく未婚の若者が大勢いらっしゃるのではないかと思う次第です。私も結婚相手を紹介してほしいと依頼を受けることがあります。情報には限りがあるため、なかなか難しい状況にあります。

そこで伺います。県は、婚活に関する支援としてどのような取り組みを行っているか。

次に、海老川水系の整備について伺います。

海老川上流地区は、船橋市街地の中心部に近く、東葉高速鉄道が東西に横断し、利便性が高いだけでなく、海老川が南北に流れ、また、県で実施中の海老川調節池に隣接するなど、水と緑が豊かな貴重なオープンスペースとなっています。また、当該地区では、船橋市が医療や健康をテーマとした新たなまちづくりとしてふなばしメディカルタウン構想を

取りまとめ、土地区画整理事業が計画されているところです。この土地区画整理事業は、平成 32 年度に事業認可、平成 33 年度に市立医療センター移築着工、平成 38 年度には東葉高速鉄道に新駅の誘致を目標として各種準備作業が進められていると聞いておりますが、このような進捗が見られる中、船橋市が目指すまちづくりと整合を図りながら海老川調節池も早急に整備すべきと考えます。

そこで伺います。海老川調節池等の整備に当たっては、ふなばしメディカルタウン構想や土地区画整理事業との整合を図るべきと思うが、どうか。

次に、道路問題について 4 点伺います。

初めは、北千葉道路についてです。

北千葉道路の整備により、市の北部地区では、新たに整備される自動車専用道路により、首都圏各地との移動時間が飛躍的に短縮され、地域の利便性が向上することで、今後、沿線地域の開発など、地域の活性化がされるものと考えております。北千葉道路の整備効果を高め、沿線地域にとって、より利便性の高い道路とするためには、北千葉道路のインターチェンジの位置や構造について、地域の将来像を十分に踏まえて計画する必要があると考えます。

そこで伺います。北千葉道路の一般部と専用部を乗りおりするインターチェンジの検討状況はどうか。

次に 2 つ目の道路問題として、国道 296 号線の渋滞対策です。

幹線道路である国道 296 号線は、地域経済の発展や県民生活向上を支える極めて重要な社会基盤施設であると認識していますが、慢性的な渋滞により、沿道の住民や道路利用者に大変な影響を与えていると思われまます。

そこで伺います。津田沼駅周辺の国道 296 号の渋滞対策が必要と思うが、どうか。

3 つ目は、県道船橋我孫子線の東船橋駅入口交差点の改良工事です。

これについては、平成 24 年の予算委員会で交通量調査をやるということで御答弁をいただき、そこから右折レーンをつくるための工事が始まったわけではありますが、現在工事がストップしているように見受けられてならないのです。どうしてしまったのでしょうか。

そこで伺います。県道船橋我孫子線の東船橋駅入口交差点の進捗はどうか。

道路問題の最後は、船橋市内の交通安全対策についてです。

船橋市は、地理的に交通の要衝であることから交通量は多く、通勤や通学のために道路を利用する人も多くおり、歩道が狭く、交差点に右折レーンがない箇所など、歩行者の安全と円滑な交通の確保が必要となっています。現在、複数の箇所で交通安全対策を実施しておりますが、特に地元からの要望の多い県道市川印西線と県道夏見小室線の進捗が気になるところです。

そこで伺います。船橋市内の県道市川印西線及び夏見小室線における交通安全対策の進捗状況はどうか。

次に、東葉高速鉄道について伺います。

本年9月県議会で同僚の茂呂議員の質疑において、東葉高速鉄道は、多額の有利子負債による毎年の元利償還金が経営を圧迫しており、黒字決算にもかかわらず、今すぐ値下げに踏み切ることが難しいという状況であること、また、今後の見通しについては、資金収支は今後赤字が続き、平成48年度には7億円まで減少する厳しい状況との認識が示されました。東葉高速がこのような状況となったのは、建設時にさかのぼり、当時、後につくばエクスプレス等に用いられた、建設費の大半を無利子貸し付けで賄う制度がなく、東葉高速は鉄道建設公団が建設し、完成後に事業者に譲渡する、いわゆるP線方式を採用したことで多額の有利子負債を抱えることになったのが原因です。この有利子負債が経営を圧迫しているため、運賃は高額のまま据え置かれており、沿線住民を中心とする利用者も負担を強いられています。

東葉高速鉄道を存続させるため、これまで県や船橋市、八千代市など自治体を中心となって、多額の出資支援等が行われてきましたが、それでもなお、現在でも2,600億円の長期債務が残っています。今後も自治体が多額の支援を続けていくことについては、高額な運賃を負担し続けている住民からは、なかなか理解が得られることではありません。私は、やはり建設の経緯から、国が主体となって、東葉高速鉄道の長期債務の縮減について抜本的な支援を行うべきと考えます。これまで県と2市は財政的な支援だけでなく、沿線開発による鉄道利用者の増加にも取り組んできましたので、こうした実績を背景に、国に対してはもっと強く要望してもよいのではないのでしょうか。そして、国への要望は事務レベルではなく、やはり知事自身が沿線の船橋市、八千代市の市長とともに行うことが重要なのではないかと思います。

そこで伺います。東葉高速鉄道の長期債務の縮減については、知事が先頭に立って、沿線市とともに国に対して支援を求めるべきと考えるが、どうか。

次は、ホンビノスガイについてお聞きします。

船橋市や市川市、浦安市の前面に広がる三番瀬を中心とする漁場は東京湾の一番奥に位置し、人口が密集した大都市に隣接しています。ここでは、古くからアサリ、バカガイ等の二枚貝を対象とした貝類漁業やノリ養殖業が盛んに営まれ、さらに底びき網やまき網などの漁船漁業により、スズキ、アナゴ、カレイ、イカ、シャコなど多種多様な魚介類が水揚げされ、その味のよさから江戸前として高い評価を受けてまいりました。

しかしながら、この漁場は大都市に近く、人間の生産活動の影響を最も受けやすい地理的な特性から漁場環境が不安定であり、近年ではアサリ、アナゴ、シャコなどの不漁やノリ養殖の不作など、厳しい状況となっています。特にアサリについては、船橋・市川地区において、数年前までは多いときで600トン、金額で2億5,000万円を超えていた水揚げが昨年は105トン、金額も3,800万円と低迷しているそうです。その一方で、大型の二枚貝であるホンビノスガイの水揚げがふえており、これまでアサリをとっていた貝類漁業者にとっては、まさに救世主とも言える新たな水産資源になっているところです。船橋市内でも、近年、市内の飲食店がホンビノスガイを食材に利用したピザやラーメンをメニュー

にそろえたり、船橋市出身のシンガーソングライターがホンビノスガイのPRソングを作成したりと、ホンビノスガイの名前をよく見かけるようになりました。これまでなじみがなかったホンビノスガイのような水産物については、広く普及させる販売促進の取り組みが重要と考えます。

そこで2点お伺いします。

1点目は、船橋・市川地区におけるホンビノスガイの水揚げ状況はどうか。

2点目として、ホンビノスガイの販売促進について、県ではどのように取り組んでいるか。

最後に、天皇陛下御在位30年についてお伺いします。

天皇陛下が来年4月30日に御退位を迎えられます。陛下は30年もの長きにわたり、常に国民の安寧と幸せを願い、また、平成28年8月のビデオメッセージでも述べられたように、日本国憲法を尊重し、常に新しい象徴天皇像を模索され、その職務を全うしてこられました。そのお姿に衷心より感謝の意を申し上げます。

陛下が御在位の平成時代には、ベルリンの壁崩壊による冷戦終結や長野オリンピックの開催、皇太子殿下、秋篠宮殿下ら皇族方の御結婚など明るい話題の一方で、バブル経済の崩壊やリーマン・ショックによる経済の停滞、そして阪神・淡路大震災やあの東日本大震災、御嶽山の噴火や熊本地震など、自然災害による甚大な被害も発生しました。このような時代にあって、より一層国民の安寧と幸せを祈ることを大切に考え、人々の傍らに立ち、その声に耳を傾け、思いに寄り添うことを常に実践されてこられました。本県にも折に触れてお出ましをいただきました。特に東日本大震災で多数の行方不明者を出した旭市には、被災地まで足をお運びいただき、冷たい体育館の中で膝をおつきになり、被災者の声に熱心に耳を傾けておられる姿を、私を初め県民はありがたい思いとともに忘れることができません。

その陛下が御退位を控え、来年1月7日に御在位30年を迎えられます。そのために、国では陛下の御退位、そして皇太子殿下の御即位をお祝いする一連の行事の中で、御在位30年の記念式典を開催することが決定しております。こうした式典は陛下の御在位20年の際にも開催され、その奉祝活動は全国各地にも広がり、さまざまな行事が実施されたと伺っています。御在位30年に際しても、全国各地でさまざまな奉祝行事の開催が想定される所です。

そこで伺います。

県は、天皇陛下御在位20年でどのような取り組みを行ったのか。

また、天皇陛下御在位30年に際してはどのように取り組んでいくのか。

以上で第1回目の質問とさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

○副議長（石毛之行君） 齊藤守君の質問に対する当局の答弁を求めます。知事森田健作君。

(知事森田健作君登壇)

○知事(森田健作君) 自民党の斉藤守議員の御質問にお答えします。

天皇陛下御在位 20 年における県の取り組みについての御質問でございます。県では、国からの依頼に基づき、天皇陛下御在位 20 年を記念する慶祝事業として、国旗の掲揚や陛下の 20 年を振り返る DVD を県庁舎 1 階ロビーで放映するとともに、県立美術館及び博物館の無料開放を実施いたしました。また、民間や団体など各界の代表者により設立された天皇陛下御即位二十年奉祝委員会では、私も代表委員に就任し、当該委員会が主催する国民祭典において、全国郷土展への出展や郷土芸能の披露に協力いたしました。

天皇陛下御在位 30 年における取り組みについての御質問でございますが、天皇陛下御在位 30 年につきましては、国民こぞってお祝いするため、来年 2 月 24 日に記念式典を開催することが閣議決定され、現在、国の式典委員会において準備を進めているところでございます。また、全国各地で奉祝運動を推進するため、日本青年会議所会頭を初め各界の代表者が発起人となり、先月 27 日に天皇陛下御即位三十年奉祝委員会が設立されたところでございます。こうした機運の中で、私も趣旨に賛同し、全国の知事とともに奉祝委員会の代表委員に就任いたしました。今後、国や民間団体から各種奉祝行事等への協力依頼があった際には趣旨を踏まえて検討するとともに、県民の皆様に周知してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。他の問題につきましては担当部局長からお答えいたします。

○副議長(石毛之行君) 総合企画部長今泉光幸君。

(説明者今泉光幸君登壇)

○説明者(今泉光幸君) 私からは東葉高速鉄道の長期債務の縮減について、国に対して支援を求めるべきとの御質問にお答えいたします。

東葉高速鉄道は、鉄道建設に係る約 3,000 億円の有利子負債を抱えて開業しており、開業直後からの国や自治体等による 2 度の財政支援にもかかわらず、依然として 2,600 億円の債務を有しているため、今後の金利動向によって経営が左右される不安定な状況にございます。このため県では、毎年度実施している国の施策に対する提案、要望において、東葉高速鉄道の経営安定化に向けた支援の充実を重点項目に掲げ、国に対して長期債務の縮減や利払い負担の軽減など、抜本的な対応を行うよう要望しているところでございます。今後も国、県、沿線市等で構成する東葉高速自立支援委員会において、関係者が一体となった支援のあり方の協議を進めるとともに、国に対する働きかけについても、沿線市と協力しながら取り組みを強化してまいります。

以上でございます。

○副議長（石毛之行君） 健康福祉部長横山正博君。  
（説明者横山正博君登壇）

○説明者（横山正博君） 私からは望まない妊娠をした妊産婦への支援についての2問、袖ヶ浦福祉センターについての2問、少子化対策についての1問、計5問につきましてお答えいたします。

まず初めに、妊娠SOS相談事業の進捗状況についての御質問でございますが、妊娠SOS相談事業は、望まない妊娠など、さまざまな事情から妊娠に不安や悩みを持つ女性を対象に、助産師や看護師等による夜間の電話相談やメール相談を実施するほか、必要に応じ関係機関への同行支援を実施するものでございます。8月に委託業者選定を行うための公募を行いました。応募者がいなかったために、現在、委託金額等の条件を変更いたしまして、再度公募を行っているところでございます。今後、速やかに事業者を決定し、望まない妊娠をした方々への支援体制を早期に確立できるよう準備を進めてまいります。

次に、このとりのゆりかごの設置に関する県の見解についての御質問でございます。熊本市にこのとりのゆりかごが設置されるに当たり、平成19年に出された国の通知では、保護者が子どもを置き去りにする行為は本来あってはならないものとの基本認識のもと、自治体に対し、相談窓口の周知や充実などの取り組みを積極的に行うことを求めています。県といたしましても、国の見解を踏まえ、まずは望まない妊娠をした方が安心して相談できる窓口の設置や医療機関との連携など、相談支援体制の整備を行っていくことが重要であると考えております。

次に、袖ヶ浦福祉センターの今後のあり方等の検討について、現在の取り組み状況はどうかとの御質問でございますが、県では見直し進捗管理委員会の提言に沿って、今月下旬に千葉県袖ヶ浦福祉センター検討会議を開催することといたしております。この会議は、利用者の御家族のほか、県内の知的障害のある方の支援に係る幅広い関係者に参加いただき、センターの今後のあり方を考える上で必要となる県内全域の強度行動障害のある方や障害のある子供の支援体制の構築、重度障害のある方を支援する施設の運営のあり方などについて御意見をいただくこととしております。

センターの今後のあり方について、できるだけ早く方向性を示すべきではないかとの御質問でございますが、見直し進捗管理委員会からは、第六次千葉県障害者計画の終了時点である平成32年度末までに県立施設として存続するかどうかを判断するよう提言を受けており、県といたしましても、利用者の処遇改善を早急に図るという観点からも、施設整備や運営形態等について迅速かつ丁寧に検討を進める必要があると考えております。そのため、検討会議においてさまざまな角度から御意見をいただき、平成31年度のできるだけ早い時期に方向性を明らかにしたいと考えております。

最後に、県の婚活支援に関する取り組みについての御質問でございます。県では、結婚から子育てまでのライフステージに応じた情報を配信する無料のスマートフォンアプリ

「ちば My Style Diary」を運用いたしまして、婚活に役立つコラムを掲載するほか、今年度、市町村が実施する婚活イベント等の情報を自動的に配信するよう、本アプリのリニューアルを行ったところがございます。また、国の地域少子化対策重点推進交付金を活用いたしまして、各市町村が地域の実情に応じて取り組む事業に対し支援を行っているところであり、今年度は県内7市町において、出会いの機会を提供する婚活イベントや婚活支援者の育成セミナーなどの取り組みが行われているところがございます。このほかに、結婚前の若い世代がライフプランを考える契機となり、各自が希望する将来をかなえられるよう、妊娠、出産、子育てに関する知識を普及するセミナーを開催しており、今年度は県内7大学の学生約1,300人の受講を見込んでおります。

私からは以上でございます。

○副議長（石毛之行君） 農林水産部長半田徹也君。

（説明者半田徹也君登壇）

○説明者（半田徹也君） 私からはホンビノスガイについての2問にお答えをいたします。

まず、船橋・市川地区におけるホンビノスガイの水揚げ状況についての御質問でございます。ホンビノスガイは、船橋や市川沖で10年前ごろから水揚げされるようになりまして、アサリと比べて青潮の影響を受けにくいというような特性があることから水揚げ量が増加してきました。県の調査によりますと、船橋・市川地区における平成29年の水揚げ量は約2,600トン、金額は約3億5,000万円と、調査を開始した平成21年と比べまして、数量で約5倍、金額で約8倍に増加しておりまして、この地区の重要な水産資源となっております。

次に、ホンビノスガイの販売促進についての御質問でございます。地元市や関係漁業者は地域イベントや学校給食などにおきまして、新たな水産資源であるホンビノスガイを実際に見て食べてもらうことで知名度を向上させる取り組みを行っています。また、県におきましても、首都圏からの観光客に向けました水産物直売所マップやホームページなどにより、新たな千葉の味として、より広くホンビノスガイをPRしております。さらに、平成29年度には三番瀬産ホンビノス貝としまして千葉ブランド水産物に認定し、国内外のトップセールスで重点的にPRするなど、より一層の知名度の向上を図っているところでございます。

私からは以上でございます。

○副議長（石毛之行君） 県土整備部長河南正幸君。

（説明者河南正幸君登壇）

○説明者（河南正幸君） 私からは海老川水系の整備についての1問、道路問題について

の4問、計5問にお答えいたします。

初めに、海老川水系の整備についてでございます。海老川調節池等の整備に当たっては、ふなばしメディカルタウン構想や土地区画整理事業との整合を図るべきとの御質問ですが、船橋市では、海老川上流部における新たなまちづくりの考え方として、ふなばしメディカルタウン構想を策定しています。この構想の中で、都市と自然が共存した町とするための施策として、県が整備を進める海老川調節池を利用した多目的広場や川沿い空間でのジョギングロードの導入等が掲げられております。また、同構想によるまちづくりを実現するため、市が積極的に支援する形で組合施行での土地区画整理事業が計画されております。この計画に伴い、県、市においては、計画区域内を流れる飯山満川について、河川位置の変更や海老川調節池への接続方法などを検討しております。県としては、海老川調節池等の整備に当たっては、市のメディカルタウン構想や土地区画整理事業の事業計画との整合を図りながら進めてまいります。

次に、道路問題についてお答えいたします。

初めに、北千葉道路のインターチェンジの検討状況はどうかとの御質問ですが、北千葉道路は外環道と成田空港を最短で結び、首都圏の国際競争力を強化するとともに、災害時における緊急輸送道路として機能する大変重要な道路でございます。本年11月に開催した国、県及び沿線市で構成される第8回北千葉道路連絡調整会議において、インターチェンジについては、最適な道路ネットワークの形成、構造基準、安全性、周辺土地利用状況や必要用地などを総合的に勘案して計画することを合意したところでございます。県としては、計画の具体化が早期に図れるよう、引き続き国や沿線市と連携して取り組んでまいります。

次に、津田沼駅周辺の国道296号の渋滞対策についての御質問ですが、津田沼駅周辺の国道296号については、交通の集中や交差点に右折レーンがないこと、路線上に踏切があることなどから、朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生しております。このため県では、前原東地先において、歩道整備とあわせて右折レーンを設置する交差点改良を実施しているところでございます。今後も地元の御協力と御理解をいただきながら、引き続き交差点改良等を進めてまいります。

次に、県道船橋我孫子線の東船橋駅入口交差点の進捗状況はどうかとの御質問ですが、県道船橋我孫子線は、臨海部と北総地域を結ぶ県北西部の重要な幹線道路であり、交通集中により、交差点を中心として慢性的な渋滞が発生しております。このうち東船橋駅入口交差点については、円滑な交通を確保するため、右折レーンを設置する交差点改良を進めているところでございます。現在、交差点を広げるために必要な擁壁工事を行っているところであり、引き続き右折レーンや中央分離帯を設置する工事を行うこととしております。今後とも円滑な交通を確保するため、早期の完成を目指し、事業の推進に努めてまいります。

最後に、船橋市内の県道市川印西線及び夏見小室線の交通安全対策についての御質問で

すが、県道市川印西線では、上山町地先と馬込十字路の2カ所で事業を実施しております。上山町地先では、延長400メートルの区間で歩道整備を実施しており、これまでに約13%の用地取得が完了しております。次に、馬込十字路では交差点改良と歩道整備を行っており、これまでに交差する県道船橋我孫子線の右折レーン設置と約130メートルの歩道整備を実施しております。また、県道夏見小室線では、北本町地先延長900メートルの区間で歩道整備を行っており、これまでに約360メートルの歩道整備を実施しております。今年度は3工区とも、残る用地取得に向けた物件調査と交渉を行っているところであり、引き続き地元の皆様の御理解と御協力をいただきながら事業の推進に努めてまいります。

私からは以上でございます。

○副議長（石毛之行君） 齊藤守君。

○齊藤 守君 御答弁ありがとうございました。再質問と要望をさせていただきます。

まず、妊娠SOS相談事業についてはこれから実施とのことですが、早く開始して、どこに相談していいかわからず不安を抱いている方たちに一日でも早く救いの手を差し伸べていただきたい。また、そういった方たちに相談窓口の情報が届くよう、しっかりと広報、周知をしてもらいたい。

また、相談窓口でのサポートとあわせ、赤ちゃんの命を救う最後のとりでとしてのこのとりのゆりかごもある2本立ての仕組みが有効だと考えています。私は、このとりのゆりかごは行政が主体となって設置していくことが望ましいと考えており、県にはこども病院という専門病院もあるので、そういった施設での設置なども含め検討してもらいたいと要望いたします。

次に、袖ヶ浦福祉センターの関係ですが、最終評価では、更生園において、少人数を対象としたきめ細かな支援に転換するための定員規模の縮小が進まなかったことについて、センターが県内の他の福祉資源から孤立していたことも大きな原因であると指摘されています。また、センターの建物についても、現行の建物内では、少人数を単位としたケアは不可能であると指摘されています。検討会議では、これらの課題の解決に向けて、民間で支援に当たっている方々などの意見をよく聞き、検討を進めていただくよう要望します。

また現在、民間の施設やグループホームにおいても、強度行動障害のある方を受け入れ、適切な支援を行っているところがあると伺っておりますので、地域移行に不安を抱いているらっしゃる利用者や御家族の方々に安心していただけるよう、民間の支援状況など、丁寧に説明しながら、引き続き地域移行に努めていただくよう、あわせて要望いたします。

次に、婚活支援についてですが、国の平成30年版少子化社会対策白書によると、25歳から34歳の未婚者が独身でいる理由は、男女とも適当な相手にめぐり会わないが最も多いとのことであります。県の婚姻数に目を向けますと、平成12年以降、減少傾向で推移し、平成29年は2万8,680組で、前年より930組減少しております。そこで婚活支援とし

て、仲人等結婚を仲介する方の人材ネットワークを構築することも1つの方策ではないかと考えます。また、以前は会社などで上司が紹介者となって縁結びをするケースも多かったのですが、今はセクハラと言われかねません。佐賀県では、企業向けの本格的な婚活支援マニュアルをつくって利用してもらっているそうです。そうした仕組みづくりに向けて、実態を把握し、他県の状況を調べるなど、県としてもぜひ研究をしていただきたいと思います。

次に、海老川調節池や飯山満川の整備ですが、構想の考え方や今後策定される土地区画整理事業の事業計画等と整合を図らなければならない点があるかと思しますので、県、船橋市が連携して進めていただくよう要望いたします。

次に、道路問題についてですが、最初に再質問をいたします。津田沼駅周辺の国道296号線で発生している渋滞の抜本的対策としては、新たなバイパスの整備や新京成線踏切の除却等しかないと思います。

そこで伺います。津田沼駅周辺の国道296号における渋滞の抜本的対策が必要と思うが、どうか。

以下、要望させていただきます。

県道市川印西線と県道夏見小室線の交通安全対策について御答弁をいただいたのですが、安全で円滑な交通を確保するため、年々目に見える形で工事を進め、早期の完成を要望します。

地元からは、県道市川印西線の藤原7丁目、コーポ馬込沢から馬込十字路までの区間について、早期に交通安全対策を望む声が聞かれており、現在の事業箇所と近接する区間がありますので、早期に事業化を要望いたします。

また、船橋市では自転車ネットワーク計画を作成し、自転車走行環境の整備に努めているところですので、県においても、市と調整を図りながら自転車走行環境の整備に努めるよう要望いたします。

次に、県道船橋我孫子線ですけれども、東船橋駅入り口については、来年の秋ごろまでにはぜひ完成させていただきたいと要望いたします。

また、道路の渋滞解消については、抜本的には当初の船橋我孫子線の計画どおり、4車線化をしなければ解決しないと思います。北千葉道路の開通に合わせる形で事業を進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

また、東葉高速鉄道ですが、長きにわたって変わらない現状を打開するには、ここは知事が先頭に立って、沿線市だけでなく、地元選出の国会議員を初めとするあらゆる関係者を巻き込んで、国に対して利子補給または支払い期間延長など、きちんとした具体的な要望をよろしくお願いいたします。

次に、ホンビノスガイの販売促進についてです。先ほどの答弁にありましたが、昨年の水揚げ金額が3億5,000万円とのことで、ホンビノスガイはまさしく救世主として、アサリにかわって船橋・市川地区の二枚貝の水揚げを支える存在になっていると思います。こ

れは、船橋漁協の皆さんが直営の三番瀬みなとやという販売所で販売したり、あるいは移動販売車を使って、学校でのバザーや各種イベントなどで積極的にPRを行い、味のよさ、食べ応えのよさから人気商品となっていると聞いています。こうした地元の取り組みに加え、県のPRを通じて三番瀬産ホンビノス貝が船橋や千葉県のみならず、さらに全国、知事の方ほどのお話では、世界に知名度が向上することを期待いたします。

次に、天皇陛下御在位 30 年の奉祝行事について、国や民間団体等から協力依頼があった際には、県も積極的に協力し、誠意ある祝意を発現していただくことを要望いたしまして、2 回目の質問事項とさせていただきます。

○副議長（石毛之行君） 県土整備部長河南正幸君。

○説明者（河南正幸君） 津田沼駅周辺の国道 296 号における渋滞の抜本的対策についてお答えいたします。

新たなバイパスの整備や踏切の除却は周辺への影響も大きく、まちづくりと一体的に捉えるべきものと考えます。県としては、津田沼駅周辺の国道 296 号における渋滞対策について、現状の把握や課題を整理し、地元船橋市との意向も踏まえ検討してまいります。

以上でございます。

○副議長（石毛之行君） 斉藤守君。

○斉藤 守君 御答弁ありがとうございました。国道 296 号については、先ほど現状の調査、あるいは把握をする旨の答弁がありました。しっかり原因を特定し、船橋市と連携し、渋滞解消に努めていただくことを要望いたします。やはり県が先頭に立って活動を起こしていただかなければ、千葉県も船橋市もよくなるということでもありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。